

取扱説明書

- ◎本製品の使用者、装着作業の方には必ず本書をお読み下さい。
- ◎本書にはお車を使用するとき、製品を装着するときの注意事項が詳しく記載してあります。よくお読みになって正しくお使い下さい。
- ◎本製品または装着車両を譲渡されるときは次のお客様のために本書も一緒にお渡し下さい。
- ◎本書は、いつでも取り出して読めるよう車の中に大切に保管して下さい。

《販売店様へのお願い》

- ★本書には装着作業するときの注意事項が詳しく記載してあります。
装着作業の方は作業の前によくお読みになって、安全に作業して下さい。





はじめに

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書には製品をお車に装着するとき、使用するときの注意事項が詳しく記載してあります。よくお読みになって正しくお使い下さい。

本書は、いつでも取り出して読めるよう車の中に大切に保管して下さい。

★本書中に表示されるマークの意味は次の通りです。内容をよく理解してから本文をお読み下さい。

 <p>危険</p>	<p>この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うことに至る切迫した危険状況を示します。</p>
 <p>警告</p>	<p>この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。</p>
 <p>注意</p>	<p>この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が重傷を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生のみが想定される内容を示します。</p>
 <p>お願い</p>	<p>この表示を無視して誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかったり、故障する内容や事項などを示します。</p>

使用上の注意事項

- 正しい使用方法を守り、本来の性能が損なわれた場合には速やかに新しいものに交換して下さい。
- むやみな空ぶかし、長時間にわたるアイドリングは行わないで下さい。特に冬季は水蒸気による水が溜まりやすいので消音能力が低下したり、エンジンルーム内に排気管の熱が溜まって車の電装品や補機部品が故障することもあります。
- 洗車の際、マフラーの内部に水が入らない様、ご注意ください。
- 塩分や湿気の多い場所での走行や保管、放置は避けて下さい。機能低下や腐蝕の原因になります。
- 本製品は事故等により、車体に変形している車両には装着しないで下さい。本製品と車体が干渉し異音の発生、または故障および損傷の原因になります。
- ジムカーナやサーキット走行など、特殊な用途のご使用は製品の耐用期間を著しく低下させます。あらかじめご了承ください。
- 不要になった自動車部品を処分する場合は自動車整備会社や自動車部品解体業などの専門業者にご相談下さい。
- 本製品を装着すると排気効率が改善されエンジン性能が向上し、エンジン本体又はパワートレイン等の特性の変化及び耐久性を損なう場合があります。あらかじめご了承ください。
- 本製品を装着すると排気音量・音質が変化するため、個人差により身体的不調を感じる場合があります。あらかじめご了承ください。
- 一部製品につきましては装着後の車の標準地上高が変わりますので、路面の突起物や駐車場の車止めなどに接触しないよう十分に注意して下さい。

目次

	ページ
安全にお使いいただくために	3～6
製品についての説明	6～7
（表示プレート位置、および製造番号・製品番号打刻位置）	6
安全な装着作業をするために	8～9
装着可能自動車と製品仕様	10
（構成品リスト、組付図）	10
組付作業手順	11～

梱包の中には製品の他に次の品が入っています。はじめに確認して下さい。万一、欠品または内容に相違がある場合は、お買い上げの販売店または弊社までご連絡下さい。

●本取扱説明書

1冊

《販売店様へお願い》

上記の品は必ずお客様にお渡し下さい。

「装着可能自動車と製品仕様」の性能等確認済表示と製品の性能等確認済表示プレートの表示番号の一致を確認して下さい。

★本製品は性能等確認済表示プレートが溶接してあります。製品をお買い上げいただきましたら、はじめに下記の確認項目(1)(2)(3)が一致することを確認して下さい。万一、相違がある場合は必ず装着の前にお買い上げの販売店または弊社までご連絡下さい。

確認項目

- (1)「装着可能自動車と製品仕様」に記載された車両型式と装着車の車検証に記載されている車両型式
- (2)「装着可能自動車と製品仕様」に記載された表示番号と性能等確認済表示プレートの表示番号
- (3)「装着可能自動車と製品仕様」に記載されたエンジン型式と装着車のコーションプレートに記載されたエンジン型式

* コーションプレートとは車のエンジン、トランスミッションの型式などを表示したプレートで通常は車のエンジンルーム内にリベット止めしてあります。

安全にお使いいただくために
必ず守って下さい

1



警告

★排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、排気ガスを吸い込むとガス中毒になるおそれがあり危険です。



仮眠をするときは、必ずエンジンを止めて下さい。

- マフラーが損傷していたり風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に浸入し、ガス中毒になるおそれがあり危険です。

換気が悪い場所では必ずエンジンを止めて下さい。

- 車庫内や倉庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、ガス中毒になるおそれがあり危険です。

換気が悪い状態で走行しないで下さい。

- トランクやリヤゲートを開けたまま走行すると排気ガスが車内に浸入するおそれがあり危険です。
- フロントガラス前側の外気取り入れ口に雪や落ち葉などが溜まっていると換気が悪くなり危険です。その都度掃除して下さい。

排気関係部品はときどき点検して下さい。

- 車の排気関係の部品は正しい取り扱いをしても、使用状況や排気ガスの有毒成分で消音性能が低下したり、製品が腐蝕して穴があくことがあります。このような場合は速やかに販売店や整備会社に相談して下さい。製品本来の性能が損なわれていたら新しいものに交換して下さい。腐蝕を放置すると排気ガスが車体の下部などにもれて車内に浸入し、ガス中毒のおそれがあり危険です。また整備不良車運行で運転者が罰せられることがあります。

車高の変化に注意して下さい。

異音や異常を感じたらすぐに点検して下さい。

- 一部製品につきましては装着後の車の標準地上高が変わります。また車高を下げる改造は路面の突起物や駐車場の車止めなどに接触してマフラーを破損したり、接触物を損傷させるおそれがあります。破損部分から排気ガスが漏れるおそれもあり危険です。
- 走行中、車の下回りに衝撃をうけたり異音・異常を感じたらすぐに車を止めて点検して下さい。その後、決して放置しないで専門の整備会社などで点検を受けて下さい。そのまま走行を続けると故障や事故の原因となる場合があります。

安全にお使いいただくために
必ず守って下さい

2



警告

★車の排気関係部品は高熱になります。
火災になるおそれがあり危険です。



可燃物の近くに車を止めないで下さい。

- 車の後側やマフラーのテールパイプ付近に燃えやすい物があると火災になるおそれがあり危険です。
- 木材、ベニヤ板などが車の後側にあるときは50cm以上はなして止めて下さい。近すぎると排気ガスで変色や変形したり、火災になるおそれもあり危険です。
- 枯れ草や紙屑など燃えやすい物の上の走行や停車は避けて下さい。排気関係部品や排気ガスは高熱になるので火災になるおそれがあり危険です。

排気関係部品に可燃物を近づけないで下さい。

- 排気関係の部品は高熱になるのでオイルやブレーキ液をこぼすと火災になるおそれがあり危険です。

仮眠をするときは、必ずエンジンを止めて下さい。

- 眠ったままアクセルペダルを踏んでしまうとエンジンの異常過熱で車両が火災になるおそれがあり危険です。



警告

★車の排気関係部品は高熱になります。
火傷するおそれがあり危険です。

排気関係部品は熱いので触らないで下さい。

- エンジンがかかっている時またはエンジンを停止した直後は排気関係の部品は高熱になっています。特に後端のテールパイプの部分は車の外側に露出していて触れやすいので気をつけて下さい。触れると火傷するおそれがあり危険です。尚、お子様には特に注意して下さい。
- トランクやリヤゲートから荷物を出し入れするとき衣服がテールパイプに触れると焦げたり、溶けたり、汚れたりすることがあります。駐車、停車する際は周囲に十分に気をつけて下さい。



注意

★排気音量・音質が変わります。
身体的不調を感じる事がありますので注意して下さい。

身体的不調を感じたら使用をやめて下さい。

- 個人差により、本製品の音量・音質等が影響して身体的不調を感じる事がありますので注意して下さい。身体的不調を感じたらすぐに使用をやめて下さい。

安全にお使いいただくために
必ず守って下さい

3



注意



車の点検整備はドライバーの法定責任です。

- 点検整備は安全性と公害防止をはかる上で必要不可欠です。定期点検はもとより日常の点検も必ず実施して下さい。

ブレーキやタイヤの整備を完璧にして下さい。

- 弊社のマフラーを装着すると排気効率が改善され車の加速性能が向上することがあります。ご自分の車の制動能力を確認してから、安全に運転して下さい。タイヤの点検もお忘れなく。

本製品は改造を行わないで下さい。

- 本製品の改造を行うと、排気ガスもれや消音能力の低下による音量の増大など、第三者に迷惑がかかる場合があります。また、車検（継続検査）を受けられない場合があります。

触媒を取り外したり改造したりしないで下さい。

- 性能等確認済マフラーは純正の触媒を残して、その後の部分を交換する自動車保安基準適合製品です。触媒を取り外したり、内外部の改造などを行うと違法であると同時に環境汚染につながります。絶対に行わないで下さい。

製品は丁寧に取り扱いして下さい。

- 製品を装着前または装着中に落としたり強い衝撃をあたえないで下さい。変形して排気ガスもれや故障の原因になることがあります。十分に注意して下さい。

マフラーは立てかけて置かないで下さい。

- 取り外したマフラーを保管する場合は、マフラーは出来るだけ短く分解し横置きにして保管して下さい。長いまま立てかけておくと倒れて危険です。



警告

★作業中の怪我や事故のおそれがあり危険です。

交換作業は専門の整備工場などに依頼して下さい。

- マフラーの交換は本来、設備の整った自動車整備工場で、専門の教育を受けた整備士が行うべき危険な作業です。専門外の方が作業を行うと怪我や火傷のおそれがあり危険です。

安全にお使いいただくために
必ず守って下さい

4



警告

★エンジン性能が向上し、車の耐久性を損なう場合が有り危険です。

★車の加速性能が向上し危険です。

定期点検を行って下さい。

●弊社マフラーを装着すると排気効率が改善されエンジン性能が向上するため、エンジン本体または、パワートレイン等の耐久性を損なう場合があります。専門工場などで必ず定期点検を実施して下さい。

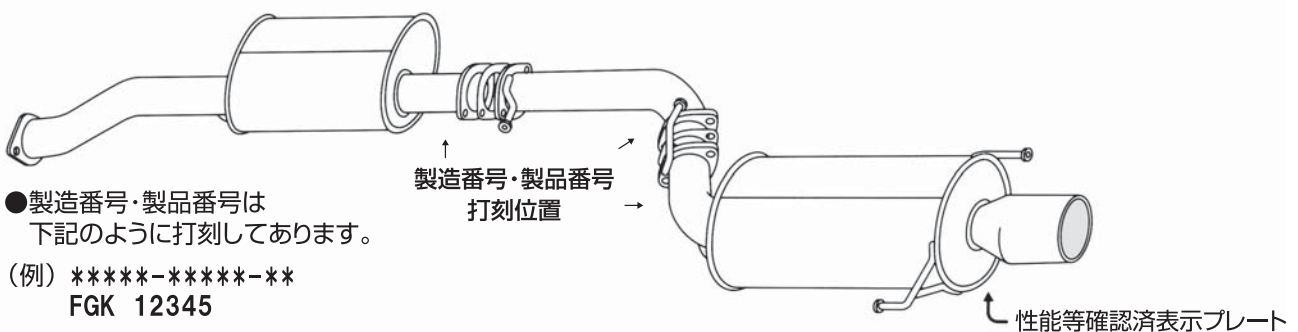
運転に注意して下さい。

●弊社マフラーを装着すると排気効率が改善され車の加速性能が向上することがあります。車の運転には十分に注意し安全に運転して下さい。

製品についての説明

1

性能等確認済表示プレート位置、および製造番号・製品番号打刻位置



●性能等確認済表示プレートは主消音器下面後端付近に溶接してあります。
※このイラストは、マフラーの一例です。性能等確認済プレート取付位置、および製造番号・製品番号打刻位置は、マフラーの形状により多少異なる場合があります。

製品についての説明

②

製品の特徴、注意事項

- 本製品は、国土交通省令で定める道路運送車両の保安基準第30条（騒音防止装置）および31条（ばい煙、悪臭のあるガス、有害なガスの発散防止装置）について、本書の10ページに掲げる車両に装着された際に、保安基準を満たす製品として事前認証を受けた製品であり、純正マフラー同様に車検（継続検査）を受けることができます。
（保安基準は平成一八年三月三十一日国土交通省令第二二号施行時の内容です）
- 上記の車両に、本製品以外の製品装着や改造を行った場合には、法令等で定められた試験の実施や改造申請などの手続きが必要となる場合があります。詳細はその製品に備付けの取扱説明書などをお読み下さい。
- 本製品は日本国内での使用を目的に設計された製品なので海外ではご使用にならないで下さい。
This product is designed only for use in Japan.
It must not be used in any other countries.
- お客様ご本人または第三者の方が、本製品の誤った使用やその使用中に生じた故障その他の不具合によって受けられた損害については、弊社ならびに試験を行った第三者機関は一切、責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- 本製品は、改造自動車に適合するものではありません。改造自動車に使用する場合は法令で定められた改造申請などの届出をし、検査合格後にご使用下さい。ただしその場合、車や本製品が損傷することがありましても弊社ならびに試験を行った第三者機関は一切、責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- 法令により、国土交通省令で指定を受けた触媒を取り外した自動車の運行はできません。
（一部の車両を除く）
- 本製品は、弊社カタログ・取扱説明書等記載の対応車両でも車両の個体差、諸条件等により装着出来ない場合があります。その際の返品・クレームは一切、受け付けておりません。
- 本製品は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 弊社製品の付属品は、製造中止から3年を経過したものについては供給が出来ない場合があります。あらかじめご了承ください。
- 本製品は材質の特性上、熱の影響で変色します。

ご使用にあたって

本製品装着後は、悪臭・白煙を伴う排気ガスが発生する場合があります。これは製造工程上パイプ内部に付着した油分が燃焼したもので、製品の品質上の問題はなく通常1～2日で治まります。異なる臭いや煙が発生した場合はただちに専門の整備会社などで点検を受けてください。

安全な装着作業をするために 必ず守って下さい

1



警告

★作業中の怪我や事故のおそれがあり危険です。

交換作業は専門の整備工場などに依頼して下さい。

- マフラーの交換は本来、設備の整った自動車整備工場で、専門の教育を受けた整備士が行うべき危険な作業です。専門外の方が作業を行うと怪我や火傷のおそれがあり危険です。



お願い

作業の前に必ず読んで下さい。

- 作業の前に念のため、車と本製品が間違いなく適合するか下記項目を確認して下さい。
 - ①「装着可能自動車と製品仕様」の性能等確認済表示の車両型式と車検証記載の車両型式
 - ②「装着可能自動車と製品仕様」の性能等確認済表示の番号と製品の性能等確認済表示プレートに打刻された番号
 - ③「装着可能自動車と製品仕様」の性能等確認済表示のエンジン型式と装着車のコーションプレートに記載されたエンジン型式

【性能等確認済表示プレートの位置は、本書の6ページに図示してあります】
- 純正マフラーの取り外し作業は自動車メーカーの作業手順に従って作業を行って下さい。
- 純正品と本製品の作業手順が異なる場合があります。本書の11ページ以降に記載された組付作業手順をよく読んで理解してから作業を行って下さい。
- 本製品の取り外し作業は、本書の11ページ以降に記載されている組付作業手順を参考にして作業を行って下さい。
- 製品を装着前または装着中に落としたり、強い衝撃をあたえないで下さい。変形して排気ガスもれや故障の原因になることがあります。十分に注意して下さい。



危険

★マフラーの装着作業は重い車を持ち上げて下側から作業するので落下による下敷き事故のおそれがあり危険です。

車の下敷き事故に注意して下さい。

- マフラーの交換は車の床下作業が多いので持ち上げた車や作業場が不安定な状態で作業を行うと危険です。必ず自動車専用のリフトを使用して安全に作業を行って下さい。
- やむをえずガレージジャッキを使用する場合は必ずリジットラック（うま、安全スタンド）を併用して安全に作業を行って下さい。
- 安全で作業性のよいリフトを正しく使用し、確実に作業することをおすすめします。
- 車載ジャッキを使用しての作業は危険なので絶対に行わないで下さい。

安全な装着作業をするために 必ず守って下さい

2



警告

★マフラーの装着作業は無理な姿勢が多いので怪我や腰痛のおそれがあり危険です。



★車の排気関係部品は高熱になります。火傷のおそれがあり危険です。

製品落下による怪我や無理な姿勢での腰痛に注意して下さい。

- マフラーの装着は離れた箇所を同時に締付ける作業や重い部品を下から支える作業が多いので、製品落下による怪我や無理な姿勢や重量物持ち上げでおきる腰痛のおそれがあり危険です。1名では作業を行わないで下さい。必ず2名以上で作業を行って下さい。

作業中の火傷に注意して下さい。

- 排気関係の部品は熱いので触ると火傷します。必ず部品が冷えてから作業を行って下さい。特に手の火傷を防ぐために必ず作業用の手袋を着用して下さい。

作業中の怪我に注意して下さい。

- 排気関係の部品は錆びてボルトやナットがゆるみにくいことがあります。部品が冷えてからスプレー式などの浸透性潤滑油を使用し、適正な工具を使用して無理のない作業を行って下さい。特に手の怪我を防ぐために必ず作業用の手袋を着用して下さい。

★販売店様へお願い。

- (1) 装着作業が終了したら、保証書の販売店記入欄に記入・捺印の上、本書を必ずお客様にお渡し下さい。
- (2) 取り外した純正マフラーを保管する場合は、マフラーは出来るだけ短く分解して横置きで保管していただくよう、お客様を指導して下さい。長いまま立てかけて保管すると倒れて危険です。

★装着作業の際には、必ず次の点検をして下さい。

- (1) 純正のマフラー吊り下げ用ラバーステーに割れ、ひび、などの劣化が生じていたら、純正品の新品に交換して下さい。
- (2) 再使用する純正のガスケットも十分に点検して、不良の場合は純正品の新品に交換して下さい。

装着可能自動車と製品仕様

- | | | | | |
|--------------------------|-----------|-------------------------------|---|--------------|
| <input type="checkbox"/> | 車名 | : コペン・GR SPORT | / | コペン GR SPORT |
| <input type="checkbox"/> | 車両型式 | : DBA-LA400K、3BA-LA400K | / | 3BA-LA400A |
| <input type="checkbox"/> | 年式 | : H26.6 ~ | / | R1.10 ~ |
| <input type="checkbox"/> | エンジン型式 | : KF | | |
| <input type="checkbox"/> | トランスミッション | : CVT MT | | |
| <input type="checkbox"/> | 製品番号 | : 17400-B243 (ポリッシュテール) ※申請品番 | | |
| | | : 17400-B244 (BGテール) | | |
| <input type="checkbox"/> | 性能等確認済表示 | : JQR10192156 | | |
| | | KF t | | |

★装着可能自動車以外の車両に取り付けした場合、保安基準に適合しません。

★本製品を装着の前に下記リストで構成品をご確認下さい。

構成品に不足、不具合が有る場合はお買い上げの販売店または弊社までご連絡下さい。

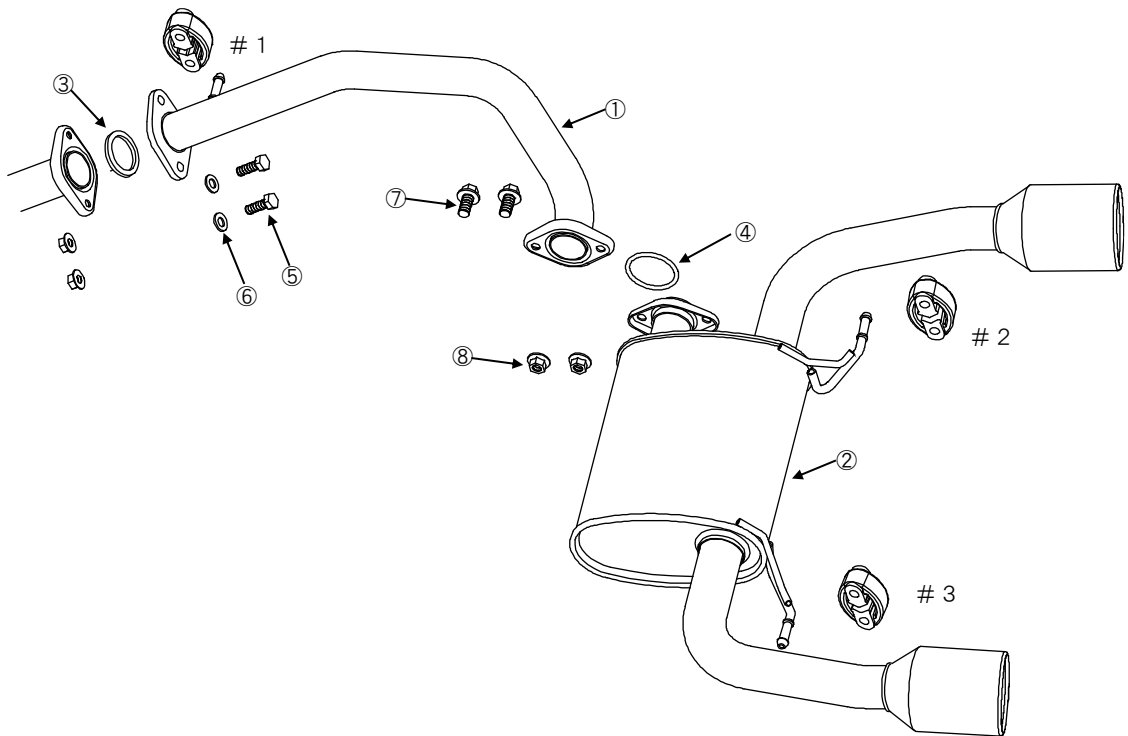
★装着作業前、装着作業中に製品を落としたり、無理な力を加えると変形して確実な装着ができず排気ガス漏れや故障の原因になる場合があります。十分に注意して下さい。

★本製品を装着することによって、自動車メーカーオプションパーツ、エアロパーツ等が装着できなくなる場合があります。予めご承知下さい。

構成品リスト

① 本体No.1	1	⑦ フランジボルト M10 L=20	2	
② 本体No.2	1	⑧ フランジナット M10	2	
③ ガasket 平リング型	1	⑨ 断熱マット 30×150	1	
④ ガasket リング型	1	⑩ ステンレスワイヤー	2	
⑤ ボルト M8 L=25	2	(⑨・⑩は、1.(1)で使用します)		
⑥ プレートワッシャー φ8	2			

組付図



* 番号表記の無い物は純正部品です。

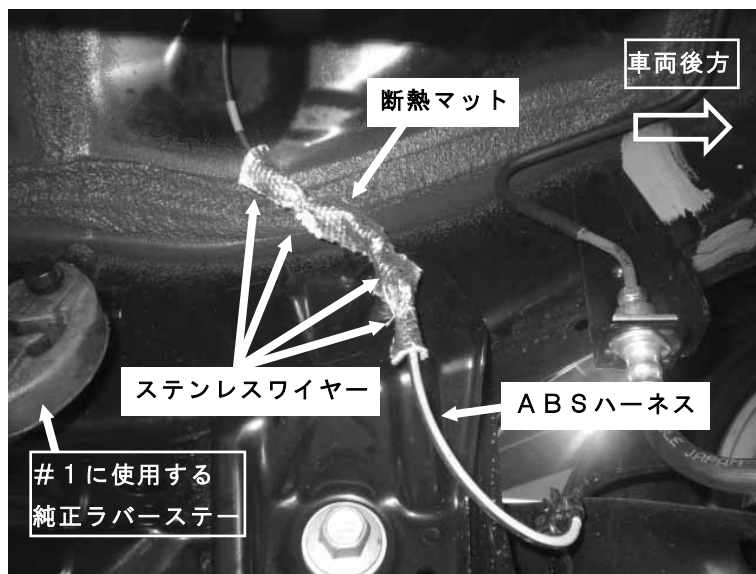
組付作業手順

- ★ 本製品（17400-B244）は、テールパイプに特殊な化学発色を施しています。
下記内容をよく読み、取り扱いには十分注意して下さい。
 - ・表面を損傷しないようにして下さい。同じ色調を得られる補修剤がありませんので、表面を損傷すると補修ができません。
 - ・汚れが目立ちやすい傾向にあります。油脂、埃、泥、薬品、手垢及び指紋等の付着により、汚れた場合は、スポンジ、柔らかい布等を使用して、市販の中性洗剤（30～50倍に薄めて下さい）や石鹼水で洗い流して下さい。それでも汚れが落ちない場合は、アセトン、アルコール等の有機溶剤で拭き取り、水洗い、からぶきを行って下さい。
 - ・異種の金属（鉄釘、針金等）が付着しますと、もらい錆が発生しますので、取り除いて下さい。その際、錆落とし用の清掃薬剤は使用しないで下さい。
- ★ 以下の道具並びに洗浄用品でのマフラー洗浄は避けて下さい。
 - ・金属ブラシ、ナイロンブラシ、サンドペーパー、硬いブラシ等の表面に傷をつけるような道具
 - ・塩素系の洗剤、タイル洗浄剤、ステンレス研磨剤、酸性研磨剤、クレンザー、コンパウンド、コンパウンド含有ワックス

1. 『取付前作業』

- (1) 図1を参照して、ABSハーネスに付属の断熱マット（30×150、1枚）を巻き付け、付属のステンレスワイヤー（4箇所、使用本数2本）で固定し、余分なステンレスワイヤーを切断して下さい。

図1 断熱マット装着要領



組付作業手順

2. 『本体No. 1 の仮組付』

- (1) 組付図を参照して、本体No. 1 を正規の装着位置に合わせて下さい。
- (2) 取付ブラケット# 1 を純正吊り下げラバーステーに差し込んで装着して下さい。
- (3) 純正中間パイプ後側フランジと本体No. 1 前側フランジの間の純正ガスケットを取り外し、付属のガスケット（平リング型）を挟み、本体No. 1 側から付属のプレートワッシャー（ $\phi 8$ ）及びボルト（M8 L=25）を通し、純正中間パイプ側から純正ナットを再使用して仮締め付けして下さい。

注意 1

純正ガスケットは必ず取り外して下さい。純正中間パイプ後側パイプ面に古いガスケット片が付着していたり、錆等が発生していたら、スクレーパー等の工具で面を平らに仕上げして下さい。
放置して組み付けると排気ガス漏れの原因になります。

3. 『本体No. 2 の仮組付』

- (1) 組付図を参照して、本体No. 2 を正規の装着位置に合わせて下さい。
- (2) 取付ブラケット# 2、# 3 を純正吊り下げステーに差し込んで装着して下さい。
- (3) 本体No. 1 後側フランジと本体No. 2 前側フランジの間に付属のガスケット（リング型）を挟み、本体No. 1 側から付属のフランジボルト（M10 L=20）を通し、本体No. 2 側から付属のフランジナット（M10）で仮締め付けして下さい。

4. 『全体の本締め付』

- (1) 本体No. 1、No. 2 の位置関係や車両の床、テールパイプとリヤバンパー、その他各部のクリアランス及びフランジ間のオイルレスリング、ガスケットにずれが無いことを確認しながら、仮締め付けして有るボルトとナットを前側から順番にしっかりと本締め付けして下さい。

M8ボルトの場合【締付トルク20.0～25.0 N・m（2.0～2.5 kgf・m）】

M10ボルト、ナットの場合【締付トルク39.0～44.0 N・m（4.0～4.5 kgf・m）】

注意 2

★本体No. 2 の締め作業は、必ず2人以上で行って下さい。

1名はリヤバンパーの切り欠きに対して、テールが中央且つ左右の高さが均等になるように固定し、1名がフランジ部のボルト、ナットをしっかりと締め付けて下さい。

※テールが中央且つ高さが均等にならない場合は、中間パイプ、触媒部のボルト、ナットを緩め、前側から順番に取付調整を行って下さい。

- (2) テールパイプとリヤバンパーの位置関係やクリアランスを確認して下さい。不具合があったら、再度組付作業手順に従って締め直して下さい。

クリアランスの不足を放置すると異音や加熱等の原因になり、**重大な故障に発展する場合があります。**また、樹脂バンパーの場合、熱で溶けます。

組付作業手順

5. 『装着状態の確認』

- (1) 全体の装着作業が完了したら、もう一度確認のためにマフラーを揺さぶって各部のクリアランスを点検して下さい。

本製品は、油脂等が付着した状態で排気を通すとしみや斑な焼けムラが発生します。
油脂等が付着した場合は、エンジンを始動する前に付着した油脂等を全て取り除いて下さい。

- (2) エンジンを始動して暖機し、2500～3000rpmに回転を上げ、各フランジ部からの排気ガス漏れや異音がしないか？確認して下さい。
- (3) 試運転して再度、各フランジ部からの排気ガス漏れや異音がしないか？確認して下さい。
- (4) 5.(1)～(3)の項目に不具合があったら、再度組付作業手順に従って締め直して下さい。

- ★ 以上でマフラーの装着が完了しました。もう一度、**取扱説明書**をよく読んで、安全で快適なドライブをお楽しみ下さい。
- ★ 300～500km走行後、各部に緩みがないか点検し、増し締めをして下さい。

◇ 発売元
◇ 製造元
◇ 取扱説明書番号
◇ 初版作成年月日

SPK株式会社
藤壺技研工業株式会社
07170926-2
2019年12月17日